

取組2 心ゆたかな若者の育成

取組の評価 2.8 一部に改善を要する

＜取組2の基本方針＞
1 自ら考える力をはぐくむ教育の推進
2 ゆたかな心を育む教育の推進
3 たくまい身体を育む教育の推進
4 安心して快適に学べる教育環境の充実
5 社会全体が連携した若者育成の推進
6 農を活かした若者づくり

【取組の目的】 知性にあふれ、ゆたかな感性と未来を拓く活力に満ちた若者を育みます。

『取組』に係る社会の動向と本市の現状

1 社会の動向

- ◎ 少子化や核家族化の進行、都市化や情報化の進展などにより、人間関係や地域間でのつながりの希薄化が進むなど、子どもや家庭を取り巻く環境は日々大きく変化している。また、最近では急激な景気の悪化の影響なども受け、若者が将来への夢や希望を持ちにくい時代になっている。
- ◎ 国で現在検討中の「子ども・子育て新システム」では、放課後児童クラブの対象年齢や受入時間の拡大が検討されている。
- ◎ 平成23年度からの新しい学習指導要領では、特に小学校低学年において、あいさつ等の基本的な生活習慣、社会生活上のきまりを身に付け、善悪を判断し、「人間としてしてはならないことをしない」などの指導を重視するなど、道徳教育について充実が図られている。
- ◎ 東日本大震災を受けて、防災教育の重要性について議論が深まっている。子どもたちの防災意識高揚に加えて、発災時に地域のために活躍できる若者の育成も注目されている。

2 本市の現状（主な取組）

- ◎ 平成22年度から着手した「農を活かした授業づくり事業」では、平成22年は市内4小学校、平成23年度は市内9小学校で事業を展開した。学校教育の中で農に触れる機会を得ることにより、徳・知・体のバランスのとれた学習・成長に役立っている。また、地域の方とふれあう好機会となっている。
- ◎ 平成23年度から、専門職が保健・福祉・教育の分野で連携して支援するネットワークづくりを進める「子ども発達支援トータルサポート事業」を展開。発達障がいをもつ子どもの早期発見・早期支援につなげる活動をしている。
- ◎ 「学力向上対策事業」など、子ども一人ひとりの「わかる」を大切にした授業の展開により、児童・生徒の学習意欲を高め、基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、考える力を大きく伸ばしているところである。
- ◎ 子どもたちの教育環境に関して、防災・減災機能を高めるために各種の施設整備について、優先的に進めている。

『取組指標』の分析と評価結果

1 取組指標の評価 【※ 実績値は、各年度末における最新数値】 評価結果の平均値（A） 1.6

＜評価基準＞ 4：達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 ≥ 0% 3：達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 < 0% 2：達成率 < 100%・前年比伸び率 ≥ 0% 1：達成率 < 100%・前年比伸び率 < 0%

番号	指標名	項目	現状値(計画)	H22	H23	H24	H25	H26	H27
1	基礎学力(自ら考える力を含む)が身についている児童・生徒の割合【%】 (小5、中2)	目標値	— 小5 — 中2	90.8 71.0	90.8 71.0	91.1 72.0	91.4 73.0	91.7 74.0	92.0 75.0
		実績値	90.5 小5 70.4 中2	89.8 69.6	84.0(小5) 73.0(中2)				
		達成率 伸び率	— 小5 — 小5 — 中2 — 中2	98.8 小5 98.0 中2	▲ 0.7 ▲ 1.1	92.5 小5 102.8 中2	▲ 6.4 4.8		
		評価	— (小5) — (中2)	1 1	1 4				
2	基礎体力が身についている児童・生徒の割合【%】 (小6、中3)	目標値	—	85.0	85.0	86.0	87.0	88.0	89.0
		実績値	84.4	59.4	50.0				
		達成率 伸び率	— —	69.8 小6 ▲ 29.6 中3	58.8 小6 ▲ 15.8 中3				
		評価	—	1	1				
3	地域活動やボランティア活動に参加している児童・生徒の割合【%】 (小6、中3)	目標値	—	78.0	78.0	79.0	81.0	83.0	85.0
		実績値	77.2	75.8	75.7				
		達成率 伸び率	— —	97.1 小6 ▲ 1.8 中3	97.0 小6 ▲ 0.1 中3				
		評価	—	1	1				
4	自ら進んで読書活動に取り組んでいる児童・生徒の割合【%】 (小6、中3)	目標値	—	30.0	30.0	35.0	40.0	45.0	50.0
		実績値	21.0	24.2	23.5				
		達成率 伸び率	— —	80.6 小6 15.2 中3	78.3 小6 ▲ 2.8 中3				
		評価	—	2	1				

【指標に影響を与えた主な要因】

2 指標で表すことが困難な成果

- ◎ 学校間の活発な授業公開により、教員の教え方の質が向上。「わかる授業づくり」がなされることにより、児童・生徒が「自ら考える力を育む教育」が進められている。
- ◎ 「農を活かした授業づくり」などでの行われる「地域人材との関わり」により、世代を超えての人や地域とのつながりが強化されてきている。

『主要事業』に係る事業評価表の評価結果

1 主要事業の評価

番号	主要事業名	H23 事業費 【千円】	事業評価表の評価結果			
			有効性	効率性	廃止の影響	
			4. 有効 3. 概ね有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 効率的 3. 概ね効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 影響あり 3. どちらでもない 2. 影響ない 1. 代替手法がある	
1	(小学校・中学校) 特別支援学級等支援員事業	30,831	4	4	4	
2	(児童・生徒) 健康診断事業	22,755	4	4	4	
3	外国人児童生徒サポート事業	10,490	4	4	4	
4	学校図書館サポート事業	3,770	4	4	4	
5	学区再編に伴う支援事業	672	4	4	4	
6	(中学校・小学校) 子ども発達支援トータルサポート事業	0	4	4	4	
7	要保護・準要保護(児童・生徒)就学援助事業	28,225	4	4	4	
8	(児童・生徒) 特別支援教育就学奨励事業	4,210	4	4	4	
9	(小学校・中学校) 特別支援教育推進事業	217	4	4	4	
10	(小学校・中学校) 外国人生徒支援事業	39	4	4	4	
11	(小学校・中学校) 読書活動推進事業	2,636	4	4	4	
12	(小学校・中学校) 大学を活かした学校づくり事業	70	4	4	4	
13	(小学校・中学校) 市長称場の会表彰事業	36	4	4	4	
14	(小学校・中学校) 情報教育推進事業	10,373	4	4	4	
15	(小学校・中学校) 元気な学校づくり推進事業補助金交付事業	6,160	4	4	4	
16	(小学校・中学校) 備品整備事業	7,212	4	4	4	
17	小学校学力向上対策事業	0	4	4	4	
18	(小学校・中学校) 人権教育推進事業	79	4	4	4	
19	(小学校・中学校) A L T派遣事業	21,294	4	4	4	
20	(小学校・中学校) 防災教育推進事業	0	4	3	4	
21	教育施設大規模修繕事業	6,034	3	3	4	
22	教育支援センター事業	1,848	4	4	4	
23	農を活かした授業づくり事業	1,901	4	4	4	
24	新学校給食センター整備事業	46,976	3	2	4	
25						
評価結果の平均値（B）		3.9	3.9	3.8	4.0	

『 取 組 』 の 有 効 性 ・ 必 要 性 ・ 緊 急 性 の 評 価 結 果

1 取組の有効性等の評価 評価結果の平均値（C） 3.0

番 号	評 価 項 目	H22	H23	H24	H25	H26	H27	コ メ ン ト 欄
1	有 効 性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	4	2					◎ 基礎学力に関する指標結果は、中学生の数値は目標を達成しているが、小学生は目標に届かず、昨年度に比較して低下傾向にある。また、基礎体力については、目標に届かず、計画策定時の値よりも大幅に低下しており、危惧すべき状況である。 ◎ 指標だけで成果は計れないが、状況が悪化している案件については、長期的な視点からの改善の余地があると思われる。
2	必 要 性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	4					◎ 若者の育成にあたっては、徳・知・体がバランス良く育まれることが重要である。本取組のための各事業は、公教育及び心ゆたかな若者の育成に欠かせないものであり、その必要性及び、保護者や地域からの期待も高い。
3	緊 急 性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	3					◎ 少子化や核家族化の進行、都市化や情報化などが進展する中、知識だけではなく、心のゆたかさを求める声は年々高まっている。 ◎ この分野に求められる緊急性は一過性のものではなく、長期的なビジョンに基づき計画的に事業を進めるべきという意味で各年度の緊急性が高い。

『 取 組 』 の 総 合 評 価 と 今 後 の 展 開 方 向

1 総合評価 <評価基準> 4 ～ 3.6：順調 3.5 ～ 3：概ね順調 2.9 ～ 2：一部に改善を要する 1.9 ～ 1：全体的に改善を要する

取 組 の 評 価			コ メ ン ト 欄
2.8	一部に改善を要する		◎ 読書活動の推進については、学校により既に大きな成果が表れている。読書に限らず大切なことは、心ゆたかな若者の育成につながる「良い習慣」を身につけさせることであるので、今後も、望ましい習慣の形成につながる事業の積極的な展開が求められる。
			◎ 指標として掲げている「基礎学力・基礎体力が身に付いている児童・生徒の割合」は、目標値に達していない項目も多く、その要因と対策を具体的に検討する必要がある。
各評価結果の平均値			◎ 若者が将来への夢や希望を持ちにくくなったと言われる時代であるが、自信を持って未来に進んでいけるよう、ゆたかな心、知性、体力を兼ね備え、健やかに育つ教育環境の充実のために、自治体として「すべきこと」と「できること」を検討し、家庭や地域との連携を進めていきたい。
取組指標の 評価結果（A）	主要事業の 評価結果（B）	有効性等の 評価結果（C）	◎ 市内の教育施設に関しては、今後10～20年で大規模な改修及びそれに係る多額の経費が必要になると見込まれるため、早期の中長期計画が策定望まれる。
1.6	3.9	3.0	

2 取組の基本方針別 今後の展開方向

番 号	取 組 の 基 本 方 針	H22	H23	H24	H25	H26	H27	今 後 の 展 開 方 向
1	自ら考える力を育む教育の推進	継続推進 ➡	拡充 ↗					子ども一人ひとりの「わかる」を大切にした授業の展開により、学ぶ喜びを感じ、主体的に学習する意識を引き続き向上させていく。自ら考える力である基礎学力を身につけた子どもの育成に努める。
2	ゆたかな心を育む教育の推進	継続推進 ➡	継続推進 ➡					東日本大震災は惨事ではあったが、思いやりのこころや助け合いについて考えるきっかけになったのではないかと推測する。また、復興支援に関しては、小中学生など若い世代もボランティアに関心が高まっていると想像できるため、これを機に、ゆたかな心をはぐくむ教育の機会としていきたい。
3	たくましい身体を育む教育の推進	継続推進 ➡	継続推進 ➡					運動意欲の向上や運動習慣の定着、食育を通じた望ましい生活習慣の定着への取り組みを継続して行うことにより、児童・生徒のたくましい身体を推進させ基礎体力を身につけた児童・生徒の割合の向上に努める。
4	安心して快適に学べる学校環境の充実	拡充 ↗	拡充 ↗					特別支援教育の推進にあたっては、今年度から発足した「子ども支援チーム」の支援を効果的に活用することで、特別支援教育推進の体制づくりを進めていく。
5	社会全体が連携した若者育成の推進	継続推進 ➡	拡充 ↗					開かれた学校づくりを促進することにより、家庭・地域・学校の横の連携を強化していく。特に、防災教育に関しては、家庭、地域、行政の協力が欠かせないものであり、社会全体で「生きる力」を身につけた若者を育成していくことが急務である。
6	農を活かした若者づくり	拡充 ↗	継続推進 ➡					平成22年度から段階的に実施校を増やして行われてきた「農を活かした授業づくり事業」は、平成22年度4校、23年度9校、24年度には全12小学校で行われる予定。地域の方との交流の機会にもなっており今後も継続していきたい。

【その他留意事項】